

令和7年度 右京区地域保健推進協議会 会議録

令和7年10月28日（火）
午後2時15分～午後3時45分
右京区役所5階大会議室1

1 開催挨拶

2 議題

(1) 京都市保健所運営方針について

事務局から説明。

委員：資料1の16ページ「京都市在宅人工呼吸器使用者等非常用電源装置購入支援事業」について、京都市から販売業者の紹介等はあるのか。

事務局：京都市から特定の業者の紹介ということはないが、ご相談いただければ業者をあたることはできる。

委員：資料1の9ページに京都市の各種がん検診の受診率が掲載されているが、その中の胃がん検診の実績については、バリウム検査だけではなく胃カメラ検査についても含まれているのか。また、大腸がん検診についても、指定医療機関だけではなく区役所や集団検診等様々な受診方法があるが、資料にある実績はこれらすべての実績数なのか。せっかくこうして数字に表すなら、全件漏らさず正確に反映させて、がん検診受診率向上に役立てるべきだと思う。

事務局：資料にある各種がん検診実績は、京都市の事業実績ではなく、国民生活基礎調査によるもののため、バリウム検査と胃カメラ検査の内訳については不明であるが、この調査結果のなかには京都市が実施しているがん検診を受診された方も当然に含まれていると思われる。ご指摘のとおり京都市のがん検診受診率は低いので、引き続き啓発活動にも力を入れていく。

委員：不登校問題について、地域としてどう協力していけばいいのか思案しているところである。保健福祉センターは、不登校問題についてどの程度把握しているのか。

事務局：義務教育における不登校問題については、教育委員会が具体的な件数等を把

握しているところではあるが、子どもはぐくみ室においても保護者から「子どもが学校に行きたがらない」という相談を受けることや、育児全般に困難を抱える家庭に対して相談援助活動を行うなかで不登校の事例を確認することも多く、子どもはぐくみ室と学校が連携して個別の支援体制を構築して対応している。相談は保護者からだけでなく、地域にお住いの方からお声をいただくことで実態を把握することもある。

(2) 令和6年度右京保健福祉センターの事業統計報告について

(3) 令和7年度右京区の地域保健の取組について

右京保健センターからの報告

事務局から説明。

各委員からの報告

- 右京医師会の会員は診療所、病院などに所属し、普段は日常診療を行っている。また、医師会独自の活動としては訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所を運営し、普段から在宅医療に力を入れている。さらに、京都市から委託を受け「京都市右京区在宅医療・介護連携支援センター」の設置・運営も行っており、医療と介護、その両方を必要とする高齢者等が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるよう、地域の在宅医療・介護関係者が円滑に連携できる仕組みや環境づくりを目指しているところである。11月29日には「あなたも今日から誰かに話したくなる！みんなの人生会議」をテーマに「第11回右京区市民公開講座」の実施を控えており、実際の事例をもとに、参加者やその家族に今後のビジョンを共有する契機創出を目標としている。
- 右京歯科医師会では「歯と口の健康を守る」各種事業を実施することにより、区民の健康増進に努めている。公益団体として歯科医師への生涯研修事業のみならず、多職種にわたる関係団体と連携して各種健診・休日歯科診療・障害者歯科診療や情報発信など多くの事業を行うことで、区民の健康の手助けを行っている。10月25日には「右京区民ふれあい文化フェスティバル」にも参加し、啓発や活動紹介を行った。今後も関係機関と連携を続け、ライフステージに応じた切れ目のない「歯と口」の健康づくりを通して、区民の充実した生活に貢献したいと考えている。
- 京都府助産師会の主な活動内容としては、「プレコンセプションケア」として、性別を問わず心身の健康状態を整えるための総合的なヘルスケアを行ったり、両

親学級の実施を行っている。京都府外の自治体では産後ケア事業の一環として、助産師が自宅を訪問し、産後の母親と赤ちゃんに対して家庭の状況に合わせた個別支援を行うアウトリーチサービスを助産師会に委託することが増えている。京都市でも産後ショートステイや産後デイケアを行っているが、それだけでは足りない。アウトリーチまで幅を広げることで多胎児家庭や精神疾患を抱えたり死産や流産を経験した母親等支援できる対象が格段に広がるので、助産師会として京都府や京都市に対し今後も積極的に要望を行っていききたい。

- 京都府看護協会では、「看護職能団体として看護の質の向上」・「看護職が働き続けられる環境づくり」・「府民の健康な生活に応える看護の提供」を目指している。特に看護職の育成に力をいれており、生涯にわたって看護職としての知識や技能を維持・向上させるための学習の場を設けることで、医療現場のみならず多種多様な場面で力を発揮できる人材を育成し、多方面から府民の健康と福祉の向上に貢献したいと考えている。また、府内で行われる駅伝やマラソン、地域のふれあいまつり等の様々な行事に救護として関わることも多く、今後も地域と連携しながら府民の健康な生活の実現を図っていく所存である。
- 民生委員・児童委員は、厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員として、それぞれの担当地域において、住民の生活上のさまざまな相談に応じ、行政をはじめ適切な支援やサービスへの「つなぎ役」としての役割を果たすとともに、高齢者や障害者世帯の見守りや安否確認なども行っている。また、個別案件への対応だけではなく、「右京区民ふれあい文化フェスティバル」において民生児童委員に対する地域住民の理解を深めるための啓蒙活動を行うほか、乳幼児とその保護者を対象に、右京子育てサロン「サンサにこにこ広場」を開催し、右京区が楽しんで子育てができる地域になるよう尽力している。
- 右京区社会福祉協議会では、「誰もが『ひとりの人間』として尊重され、安心して暮らせるまちづくり」の実現に向け、「令和時代に即した住民主体の地域を創ろう～活動は楽しくないと続かない～」をテーマに、5つの重点目標「1. 当事者の声が伝わる機会」「2. 多様な主体が力を分かちあう場」「3. わくわく参加する土壌」「4. 地域の人・団体の魅力発信」「5. 地域の福祉に関わる団体がいきいきと活動する基盤」を軸とした右京区地域福祉活動計画を立てている。今後も住民主体の原則に立ちながら、地域福祉活動の推進を行っていききたい。
- 京都市地域女性連合会では、女性の自立と社会参画の推進活動に留まらず、「温もりのある地域づくりの推進」を目標に、青少年育成・環境・文化活動・社会福

祉・保健衛生等様々な分野での地域活動に取り組んでいる。そのなかでも右京区地域女性連合会としては、高齢者の1人暮らしが増加の一途を辿っていることを受け、社会的な孤立や、生きがいを感じられず寂しい思いをしている方への居場所づくりに力を入れている。社会的な孤立によって活動機会が低下することで、フレイルの進行や認知症のリスク等が高まる恐れがあるため、積極的な声掛けや活動機会の提供を今後も行っていきたい。

- 三菱自動車京都製作所では約 1,400 名のスタッフが鋳造から組立まで一貫した自動車エンジンの製造を行っている。地域保健事業と直接的な関わりがあるわけではないが、我々が製造しているプラグインハイブリッド車は災害時の可動式非常用電源や物資輸送として非常に有用とされており、避難所や被災地での活用が期待されているところである。この最先端技術を担うスタッフが、今後も力を発揮し続けることができるように、心身の健康増進に繋がる様々な活動を企画し続け、より安全で安心な地域社会実現に繋げていきたい。
- 私は普段、民生委員や障害者部会の部会長として活動を行っている。特に障害者部会としては関係施設の見学研修を行ったり、当事者やその家族、有識者の方々等からお話を伺う機会を設け、情報収集や課題集約を行っているところである。そのなかで、近年増加している精神的な不調に悩む方たちとどう繋がり、どこに繋げていけばいいかについて悩んでいる。若い世代で一人暮らしの方が精神的な不調を来すと孤立し一人で思い悩む傾向が強く、障害保健福祉に関する情報の提供や啓発が困難である。いわゆる「引きこもり」の方と出会った際、どこに繋がればいいのか教えてほしい。
- 右京区保育園長会は、京都市保育園連盟に加盟する右京区の認可保育園と認定こども園で構成されている。あらゆる感染症が発生しやすい環境という特性上、かねてより保健センターとは密な連携を行っているところだが、近年、発達障害に対する認知度や理解力が高まったことで、何か気になることがあれば病院や子どもはぐくみ室、児童福祉センター等に相談する保護者が増えてきたように感じている。発達支援事業所も増加傾向にあるなかで、保育園・こども園として、それぞれの特性と正しく向き合うことができるよう、行政との連携をさらに強化していきたい。関連して、5歳児健診に係る京都市の検討状況について伺いたい。発達特性の早期発見を目的に、こども家庭庁が予算措置を行ったことを契機に、京都府内の自治体でも5歳児健診の実施が広がっており、京都市でも令和8年度からの開始に向け調整中と聞いているところである。その後、開始時期や方法等の詳細については明かされていないが、現在の状況はいかがか。

- 右京区自治会連合会は、各学区を代表する住民組織として活動を行っている。各町内会が抱える未加入や脱退という大きな課題の解決に向け、地域に愛着を持ってもらい、地域活動に興味を持ってもらえるような企画を積極的に行っている。町内会に加入しない理由はそれぞれあるかと思うが、町内会に加入しないことで、地域のイベント情報・防犯や防災に関するお知らせ・行政からの連絡事項・工事や交通規制の予定など、日々の様々な情報が共有されないだけでなく、避難経路や避難所の場所を十分に把握できないまま災害を迎えることになりかねない。特に大規模災害発生時には、行政の支援が届くまでの間、いかに地域住民同士で助け合えるかが重要となる。より多くの住民に町内会活動について理解を得られるよう、今後も活動を続けていく所存である。
- 老人クラブでは、「地域高齢者の健康づくり・介護予防活動」、「高齢者やその家族を支援する友愛活動」、「安全・安心の住みよいまちづくりを目指すボランティア活動」という3つの取組を行っている。その中でも「健康づくり活動」の一環として行われている「歩こう会」というウォーキングイベントでは、京都市内11行政区の中でも右京区からの参加率が非常に高く、右京区民の健康意識の高さを感じているところである。しかしながら、年を重ねるにつれ体育事業に参加が困難になるメンバーも多く、悩み事や困っていることを相談できる相手の存在や、居場所づくりの重要性を痛感している。これからも高齢者が元気に楽しく生きがいを持って日々の生活が送れるよう、右京区の健康長寿の増進に向け邁進していきたい。
- 右京献血推進実行委員会では、安定した血液供給の確保のために、日本赤十字社や行政・地域住民等々とともに、献血事業の推進に尽力している。京都市内のなかでも右京区は献血にご協力いただける方が多く、その理由を考えるに、地域住民が協力・連携して暮らしやすい魅力的な地域をつくっていかうとする「地域力」の高さにあると思う。しかしながらコロナ禍を経て地域社会の在り方が大きく変わったような印象を受けている。特にコミュニティ機能の著しい低下については、「高齢化」「少子化」等の一言で済ませてはいけないような大きくて複雑な問題を孕んでいるように考える。地域の絆を連綿と世代を超えて受け継ぐことが困難になりつつあることに不安を感じているが、今後も地域に感謝しながら活動を続けていきたい。
- 京都光華女子大学では、地域貢献・社会貢献を目的に、地域社会や自治体等が有する課題やニーズに対し、「地域連携支援センター」として大学という特性を生

かしながら課題解決や公開講座・イベント等の開催を行っている。また、私自身は看護学科の教員として保健師を目指す学生の指導を行っている。右京保健福祉センターでは実習生の受け入れに協力いただき、「サンサ健康広場」においては学生がフレイル予防体操を担当するという貴重な経験を得られた。日々学生と触れ合う中で、実習の体験談等を聞いていると、地域住民との交流を経て得た気づきというものがとても多く、看護職としてどういった社会貢献ができるのかについて考えるきっかけになっているようであるので、もっと地域と学生がコミットできるような機会が増えれば良いと思う。地域にとっても、学生の若者ならではの視点や感性が地域力再生に向けた一助に繋がると考えている。

- 右京医師会では、今後必ず発生する大きな災害に備え、地域のどこにどんな世帯や人物が住んでいるかをきちんと把握し、災害発生時にはどう避難をするのか、関連機関同士でどのように情報共有を行うかのシステム構築に努めている。災害発生時には住民同士の助け合いが基本となっているが、「地域での助け合い」というような漠然とした目標ではなく、大きな混乱のなかでも右京区のこと、右京区の中で完結できるような仕組みづくりをお願いしたい。また、若い世代の感染症予防に対する知識、とりわけ性感染症に対する知識が不足しているように感じるので、保健センターにも啓発活動に力を入れてほしい。
- 保健協議会では、「健康づくり活動」や「環境衛生の向上」など、公衆衛生に係る幅広い活動に取り組むとともに、京都市の公衆衛生事業について、地域住民に対し周知や啓発を行ったり、運営協力を行っている。活動を行う中で最近の心配事は、以前は各学区の小学校や中学校で行われていた集団健診が、コロナ禍を契機に区役所で行われるようになったことで、後期高齢者健康診査の受診者の減少に影響しているのではないかとということである。区役所まで足を運びづらい方は近隣の医院や病院で個別健診を受けているのだろうとは思いますが、機会を逃している方がいるのではないかと懸念している。また、京都市では、国の指針に定められている5項目のがん検診（胃・大腸・肺・乳・子宮）に加え、京都市の独自事業として2項目（前立腺、胃がんリスク層別化検診）の計7項目のがん検診を実施しているが、すべての項目において受診率が全国平均を下回っている。受診率を上げるためにどう啓発していくことが望ましいのか日々模索しているところである。

事務局からの回答

- 5歳児健康診査については、令和8年度からの開始に向け、関係機関と協議のうえ調整を進めているところである。多くの自治体において検討が進められ、既に

実施に至っている自治体も多くあるが、京都市という自治体の規模の大きさに加え、「こどもの特性を早期に発見し、特性に合わせた適切な支援を行う」という既存の乳幼児健康診査とは異なる目的を有した新たな健康診査の実施ということで、多方面からの意見を広く募りながら調整を行っている。現時点では、今後の実施スケジュールについて確定的なことをお答えできる段階ではなく大変心苦しいが、今しばらくお待ちいただきたい。

- ひきこもり状態にある方については、健康長寿推進課もしくは京都市ひきこもり相談窓口宛にご相談いただきたい。

3 閉会挨拶